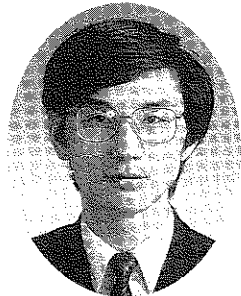


## これからの日本への期待

工学研究科博士後期課程 キョ 琚 イ 詒 コウ 光  
(1993年度修了)



私は中国の清華  
大学で修士を終え、  
1990年10月に杜と  
文化の都仙台に参  
りました。東北大  
学流体科学研究所  
新潟先生のご指導  
のもとで、燃焼工

学を学び、今年3月に博士学位を取得し、今  
は助手として勤めさせていただいております。  
この場を借りて、懇切なご指導を賜りました  
新潟先生に厚くお礼申し上げます。また四年  
間の生活を支えて下さった新潟研究室のみな  
さんのあたたかいお心遣いとお友情に心から  
感謝致します。

### 1. 留学生今昔

世界で最も古い留学の歴史を持つ国は日本  
です。日中間の一衣帯水の関係もこの長い留  
学歴史と切り離して語る事が出来ません。  
日本の留学の歴史は608年聖徳太子時代の留  
学僧から始まりました。奈良時代は多い時  
には毎年500人ほどの留学生が中国に派遣され、  
大陸の文化と律令を学んで帰国しました。  
「留学」という言葉はその留まって学ぶとい  
うような勉強の仕方から生み出されたものと  
考えられます。しかし、9世紀以後の中国は  
各地反乱が相次ぎ、国力は低下してゆきまし  
た。これまで常に中国を手本としてきた日本  
は西欧文明に目を向け始め、明治政府発足直  
後の1871年に初めて59人の留学生を欧米に派  
遣しました。法律制度や産業を学び、帰国し  
た彼らは、国の要職に就き、近代日本の要と  
なって活躍しました。

中国も明治維新前後、浴閥を始め、100人  
ほどの初代留学生を欧米に留学させましたが、

当時政権の中核にあった洋務派の「中華思想」  
の為に、帰国後に国に貢献する機会を得られ  
ませんでした。次に中国が大量の留学生を派  
遣したのは日清戦争の直後でした。「中華思  
想」が戦争と共に破れ、後進アジアの開拓者  
日本に、かがやかしい希望を抱いて多くの留  
学生が日本にやって来ました。中には魯迅、  
秋瑾がいました。また亡命してきた革命派の  
孫文と黄興、保皇派の康有為もいました。そ  
の後郭沫若と周恩来の姿もありました。

来日した魯迅先生は、「中国は弱国だ。従っ  
て、中国人は当然低能児だ」という当時の社  
会風潮の中で、医学の勉強をやめ、麻痺した  
中国人の目を覚ます為、文学を選びました。  
しかし、魯迅先生は西洋医学が中国で花咲く  
ことを期待していた敬愛する藤野先生の好意  
と日本人の友人達の理解も大切にして帰国し  
ました。彼が書いた「藤野先生」は中国の民  
衆に初めて厳しくて優しい日本人像を伝えま  
した。日中戦争時の抗日運動のさ中において  
も「日本人の熱心さと勤勉さは我々の模範だ」  
と訴え続けました。

また、三民主義の父と呼ばれる孫文は在日  
中、日本の民主的な人々とともに歩み、宮崎  
滔天などの友人から、金、兵器、連絡、組織  
などの協力を得て、1911年辛亥革命を発動し  
ました。それから、周恩来は田中さんと手を  
結び、1972年「日中共同声明」に署名しまし  
た。彼は死ぬまで親日派と言われました。

再び留学の波が日本にきたのは1978年、中  
国が改革開放を打ち出した後でした。今回の  
留学生の特徴は、中国30年の鎖国政策を背景  
に、人数が多く、競争が激しく、分野が学問  
に集中し、私費留学生が絶対多数を占めるこ  
となどです。今日の留学生はこれからの中国

経済文化の発展および日中友好関係の発展に今まで以上に大きな役割を果たすに違いありません。

## 2. 大学中心型の国際化

1983年中曽根首相が東南アジアを訪問した後「21世紀へ留学生政策に関する提言」を発表しました。いわゆる10万人計画（1万国費＋9万私費）です。これに伴って、政府は従来の入国管理法のいくつかを変更しました。主には「入国手続きの簡素化」と「週20時間のアルバイト許可」です。その後留学生の数が急激に増え、現在は5万人に登りました。そのうち、私費留学生が9割を占めていました。

しかし、大量留学生の受け入れは上の二つの政策の変更だけで対応できることではありません。まず、日本語教育の問題です。留学生急増の中で、個人経営の日本語学校が雨後の竹の子のように生まれ、留学生から多額の留学金と授業料を集め、多数の留学生が借金を抱えてしまいました。そして、「週20時間のアルバイト許可」は入国管理局では一日最大4時間しか許可できないと説明され、しかもその許可は私費留学生だれでももらえる訳ではありません。法を尊重する留学生が学生相談所へバイトを探しに行く時、担当の方は熱心に世話をしてくれますが、一日4時間以下のバイトは非常に少ないのが現実です。私費留学生の急増傾向を抑えるため、私費留学生がビザを延長する際、入管は留学生の通帳を検査し、生活の保証が出来ないなどの理由でビザの延長を拒否したり、手続きを引き延ばしたりします。そんな応待に不満と失望を感じる留学生も少なくありません。それから、私費留学生に対する研究援助、留学生の就職に関する政策も遅れが感じられます。

「政治は数だ。」これが永田町の理論です。しかし、国際化は永田町の政治ではなく、心と心のふれ合うシステム工学です。

急増する留学生に、積極的に手を差し伸べてくれたのは日本の大学と民間団体でした。政府の援助なしで、4万人以上の私費留学生に研究指導のほか、日本語の教育、授業料の

免除、留学生センターの設立、見学旅行、就職などに関して最大限の努力をしてきました。日本の国際化はまさに大学主導型の国際化と言っても過言ではないと思います。私は日本の大学および大学の先生方の国際交流に対する貢献は極めて大きく、感謝すべき、評価されるべきことだと思います。

日本に留学することは中国青年たちの夢のひとつです。私自身の感想から言うと、在日留学生は非常にいい環境に恵まれていると思います。中国とは対照的に、日本の教育は幅が広いです。そして、技術と情報を背景に、世界一流の研究を行うことが出来ます。それから、海外の国際学会に出席し、世界最先端の研究に触れることもできます。それから、研究室のゼミ合宿、コンパ、見学、ホームステイなどがあり、この機会を通して、日本人の礼儀正しさ、自然と文化を大切にしている心、勤勉さと教育の良さ、熱心さと集団性などを学ぶこともできます。

しかし、大学の先生にとっては、留学生の面倒を見ることは決して容易ではありません。文部省からは私費留学生への援助はほとんどないので、研究費を用意することがまず大変です。それから、言葉の問題です。先生は留学生に研究指導の他に、日本語の文法まで教える必要があります。また、留学生がアパートに入居あるいはビザを延長する際、先生は身元保証人になります。そして、最も問題なのは、留学生の生活費の面倒を見ることです。日本は他の先進国と違って、研究費は人材雇用には使えません。先生は留学生の奨学金のために書ききれないほどの推薦書を書くほかに、いろいろな工夫をする必要があります。それから、見学、学会出席、ゼミ合宿などの留学生にとっては貴重な機会を与えるために、資金の援助も大変なことです。さらに、卒業する際、留学生のための就職案内がほとんどないので、しばらく日本の企業に就職したい留学生はやはり先生に頼るしかありません。中国で自分の父親しか見てくれない面倒を日本の大学の先生が見て下さったのです。私は、

「人の息子の面倒ばかり見て、自分の息子は  
どうするの」という先生の奥さんの悩みをよく  
理解できます。

大学と共に、熱心な日本の民間団体、ボラ  
ンティア組織も日本の国際化を支えてきまし  
た。日本の民間奨学会の組織は世界で最大の  
規模を有します。留学生のお世話をするボラ  
ンティア団体も数え切れません。歴史は国民  
の手で作られます。このひとつひとつ光って  
いる心は日本の国際化の明るい未来を意味し  
ます。

### 3. 欠かせない国際理解

高度成長を遂げた日本は、今日米の貿易摩  
擦、国連常任理事国の加入、バブル崩壊後の  
就職難、外国人犯罪または不法就労などの問  
題を抱えています。国際理解なしに日本の繁  
栄は続くのか、また、日本人の理解なしに留  
学生達が国際交流の架け橋になれるのかとい  
う問題を考える必要があります。

前に述べたように、日本は長い歴史を有し、  
留学に対して自分なりの考え方を持っています。  
つまり、留学とは優秀な人材を選んで、  
先進国に派遣し、帰国後自国のために貢献し  
てもらうというものです。この考え方は日本の  
留学の伝統または日本人の集団性から理解  
できます。だからこそ、日本人は留学生に熱  
心に援助し、大きな期待を寄せてくれている  
わけです。私たち留学生はこの考え方を尊重  
すべきだと思います。

一方、冷戦が終わり、来日した留学生の考  
え方が大きく変わってきました。私費留学生  
は愛国心が変わらないが、もう国のためでは  
なく、自分の夢を実現する為に留学したので  
す。日本に来る前は、一生懸命勉強して、帰  
国後立派な仕事に就こうと考えていても、来  
日後は、日本という国際舞台で世界を視野に  
入れ、自分の人生をどう生きるかを考え直す  
ようになります。学んだことを活かすために、  
まず安定した生活環境が必要です。中国政府  
は人材流出を防ぐため、留学生の帰国に、努  
力し続けていますが、研究者の待遇は民間人  
よりいまだにかなり低いのが現状です。生活

のため、商売を副業とする大学の教官がたく  
さんいます。清華大学だけで、会社の数が60  
を越えます。しかも、若い研究者ができるだ  
け海外に行くのが現状です。私の先生は私が  
卒業する直前、中国の大学の現状を見に行き、  
帰国後「瑤君もう少し日本にいた方がいい」  
と言ってくれました。今年四月に東北大学の  
助手を辞め、清華大学に戻ったCさんも同じ  
ようなメッセージをくれました。

東大のある先生が「我々は自国で仕事をし  
ているから、海外で尊敬される」と私に言い  
ました。確かにそうですが、日本国外で活躍  
して尊敬される日本人もたくさんいます。多  
数の留学生が卒業後も日本に留まりたがる  
というのは、中国が落ち着くまでの一時的な現  
象だと思います。もちろん在日留学生には日  
本が好きだからこそ、日本を選び留まってい  
るわけですが、時期が来れば、自国へ帰る人  
がほとんどだと思います。

日本に対する留学生の批判は様々ですが、  
悪意はありません。日本では、沈黙が金です。  
しかし、外国には沈黙が銅にもならない国も  
あります。ある人は「中国人は外国の欠点を  
指摘するのが上手ですね」と言いました。中  
国には、「言者無罪、聞者足戒」という50年  
代毛沢東の言葉があります。批判は抑えれば、  
やがて雷になります。言いたい人がいれば、  
舞台を作ってあげた方がいいのです。

留学生は日本が理想的な国になってほしい  
と思っています。批判するのはこの国を愛し  
ているからです。帰国したら、やはり魯迅先  
生のようにこの国の良さを自国の民衆に伝え  
たいと思っています。日本を否定することは  
自分の留学史を否定することと同じです。私  
たちは自分の未来に期待し、日本の未来に期  
待します。日本は常任理事国だけでなく、さ  
らに高い視点を持ち、指導的な立場に立ち、  
他人の病もわが身、アジアの国々と共に次世  
紀の平和と繁栄を目指してほしいと思います。  
世界のどこへ留まっても、必ず応援します。

(現職：流体科学研究所助手 中国出身)